オリジナルブランド米の生産拡大を目指して有機JAS認証取得

1. 農事組合法人やない（松江市玉湯町林）

【設　　立】H16年4月
【組　合　員】32名
【経営面積】7.3ha
【経営内容】水稲4.7ha、ソバ1.2ha、飼料用米1.3ha

2. 取組の経過及び概要

設立当初から無農薬・無化学肥料栽培、冬期湛水、不耕起栽培、成苗育苗を組み合わせた環境にやさしい農業を実践。

H18年7月にはエコファーマー制度を活用し、エコ農産物として販売。

無農薬・無化学肥料栽培を継続することで、田んぼで多くの生き物との共存ができてきたことから、慣行栽培とは差別化を図りオリジナルブランド化。

そのネーミングは地域住民から公募し、不耕起栽培米を「とんぼ米」、きぬむすめを中心とした無農薬・無化学肥料栽培米を「エコロ米」と名付け、個人向けに直接販売を開始。

R元年からは神戸市や鎌倉市の県外への販路を拡大し、引き合いも強いことから、R3年度には栽培面積を拡大。

米の有利販売に繋げるため、有機JAS認証への取得準備をR2年度から本格的に開始し、R4年に有機JAS認証申請し、同年に認証を取得。

R6年、松江市農林振興協議会が「松江地区有機米JAS米産地づくりビジョン」に基づき開催した実需者との意見交換会や現地視察に参画。

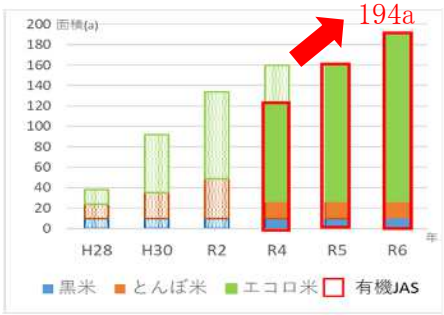
ブランド化した商品（左：とんぼ米、右：黒米）

3. 取組の成果

(1) 有機JAS認証取得面積の拡大

R4年9月15日の現地審査を経て、11月18日付け122aで有機JAS認証を取得。

年々、認証取得面積が広がり、認証面積は194aに拡大（転換期間中を含む）。



ブランド米栽培面積と有機JAS取得面積の推移

(2) 新たな販路の確保

実需者との意見交換の場に参加し、有機米生産の意欲が向上するとともに、新たな販路を開拓。

(3) 米づくり体験を通じた消費者への情報発信

販売先の消費者に参加を呼びかけて、田んぼの生き物調べや田植え、収穫体験などを通じて生産過程の理解を促すことで、有機JAS 米本来の価値を情報発信。

R4年収穫体験会の様子

代表者から一言

薬剤や化学肥料に依存しない、田んぼの生き物と共存した無農薬での米づくりへの挑戦です。
今後は有機JAS認証をステップとして法人の経営安定に繋げ、人や生き物すべてと共存できる地域づくりを目指します。

福間　悟　代表理事組合長

4. 課題と今後の取組方向

(1) 有機米生産量の確保に向けた面積・収量の拡大
(2) 有機米のPR活動の強化
(3) 有機米を柱に法人経営を安定させ後継者を確保
(4) 有機米の産地化に向けた生産者連携の検討

＜問合せ先＞東部農林水産振興センター農業振興部　松江地域振興第二課　0852-32-5689